

# 防災対策を要望

## 霧島土砂流出 市長に地域住民

霧島市霧島永水の太陽光発電施設の建設現場で敷地内の土砂が流出した問題で、地域の自治会や水利組合代表者らが20日、前田終止市長に防災に関する要望書を提出した。意見交換で

は「あの程度の雨で被害が出た。梅雨時の被害が心配だ」「市や県はやるべきことをやっていない」などと厳しい指摘が相次いだ。

市を訪れたのは、永水地区公民館の松元輝美館長や同地区6水利組合の園田義

昭代表、自治会長ら12人。前田市長に対して要望書を手渡した。

要望書では、「田植えの準備などに深刻な支障をきたしている。梅雨入りが目前に迫り、集中豪雨などによる再度の土砂流出が大変心配」などと指摘。市に対して、締結した開発協定書に沿って防災工事などをすすめるよう事業者を指導する▽事業者が事業申請書や開発許可書通りの安全対策をしているか事業の許認可権者

の県が監督するよう働きかける、などを求めた。

市は要望に沿った対応をしないと答えた。

永水地区では過去にも水害に見舞われ、甚大な農業被害が出ている。その後にあつた意見交換の場では批判的な意見が続出した。

「過去の水害の教訓が全く生かされていない」「当然と思える要望をしたのは、それがなされていないから。市は適切な調査や指導をしていない」「防災工事を優先すべきなのに、先に電線の埋め込み工事をしている」「などの声上がり、住民たちは怒りを抑えられない様子だった。（大久保忠夫）